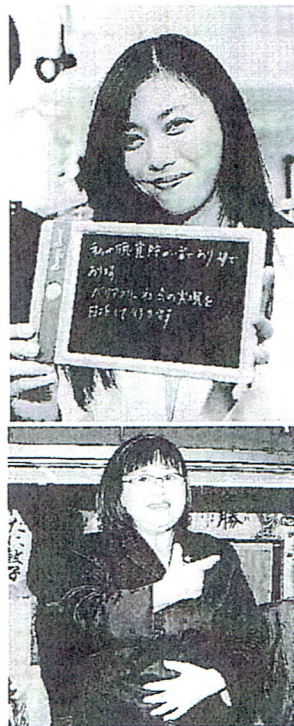


統一地方選終了

身ぶり手ぶり訴え届く

26日投票の統一地方選後半戦は、27日朝から東京都内の6区で開票が行われた。今回の選挙では、聴覚障害を抱えながら、「筆談ボキボキ」として知られた齊藤里恵さん(31)が都北区議選で、家根谷敦子さん(55)が兵庫県明石市議選でそれぞれ初当選。全日本ろうあ連盟によると、国会議員も含めて聴覚障害者の議員当選は過去1人しかいなかったが、一気に2人誕生した。



①北区議選で当選した聴覚障害者となり、記者の質問に筆談で応じる齊藤里恵さん(27日) ②杉本島大輝彰(兵庫県明石市議)に当選した書ひを手話で表現する家根谷敦子さん(26日)

聴覚障害「バリアフリー社会に」 2人当選

トップ当選が確定となった27日午前2時過ぎ、齊藤さんは支援者らに笑顔を見せ、「ありがとうございます」と手話で伝えた。取材には筆談用の電子ボードで応じ、「まだ信じられませんが」と心境をこぼした。

1歳の時、髄膜炎の後遺症で聴力を失った。言葉は聞き取れないが、23歳の時に東京・銀座の高級クラブで働き始め、筆談による接客が人気になった。今はボキボキを辞め、シングルマザーとして4歳の娘を育てる。

冬。東京五輪・パラリンピックの開催決定で、「障害者が活躍できる世の中にしてほしい」との思いを強くした。選挙戦では、街頭で名刺を配ったり、身ぶり手ぶりで思いを伝えたりすることで徹底した。

ハンコを背負い、議員活動ができるのか不安視する声もある。齊藤さんは、議会ではパソコンの音声読み上げソフトを活用し、政策発信にはソーシャル・ネットワークキング・サービスク(SNS)を利用すれば、対応できると考えている。「少数派の声を代弁し、バリアフリー社会を実現し

た。市議会事務局は手話通訳者の準備を検討するとしている。

全日本ろうあ連盟によると、聴覚障害者の議員第一号は、01年の長野県田代村議選で当選し、1期務めた桜井清枝さんだといふ。

投票当日の開票となった都内6区のうち、江東、大田、江戸川の3区長選ではいずれも自民、公明の推薦を受けた現職が、大差で新人候補を退けた。